

## 北海道支部主催 管理者セミナーを終えて



昨年4月のNPO 法人日本医師事務作業補助研究会北海道支部設立以降地方会運営に加えて、学会発表、教育講演、新聞掲載など積極的に行い、医師事務作業補助者の啓発に活動を展開しています。今回は北海道支部として初めてのセミナー企画、開催となりました。医師事務作業補助者の定着のためには、病院管理者が医師事務作業補助者を理解する必要があると考え、病院管理者を対象にしたセミナーとしました。開催にあたり北海道支部の世話人でプログラ

ム構成や参加費の設定などについて話し合いを繰り返し行い内容の吟味、価格設定をいたしました。またセミナー会場については北海道支部世話人、時計台記念病院の佐藤勝彦先生のご厚意で、格安で病院のセミナー室を使わせていただきました。当初の予想では15人程度（私の予想でした）の申込みにとどまると考え赤字も覚悟していましたが、ふたを開けると70名あまりの申込みがあり、世話人一同驚きました。参加者を見ると病院院長や事務長、事務部長の参加が多く（管理者セミナーなので当然ですが）人数、お金、参加者開催側にとってプレッシャーとしてのしかかりました。



セミナー当日は、2時間前集合で会場準備を行いました。事前準備は地方会と同様と考えていましたが、開始40分前に最初の受講者が来場し受付開始、この瞬間から緊張は急上昇しました。開始5分前には、ほぼ全員が受付を終了していました。会場を見

渡すと、そうそうたるメンバーで緊張感を煽られました。各演者の講演の始まりは声が震えていて、緊張度合いをうかがわせました。内容に関してはホームページ上のプログラムをご参照してください。受



講者の皆さんは大変熱心に講演セミナーに参加されており、資料に書き込みを行っている姿も見られ、セミナーは好評であることをうかがわせました。特に事務部門の人員費評価と実務管理の具体的方法に関しては皆さん大変興味を持たれているようでした。セミナーは座長の誘導もあり、多くの質問をいただき、最終的には予定時間を少し超過して終了する状況で

した。受講者皆様の反応を見ていると有意義であったと感じ、北海道の医師事務作業補助者の



発展の可能性を感じました。セミナー終了時には世話人一同の安堵感が強く感じられ、皆の晴れやかな笑顔が印象的でした。

今回セミナーを開催して感じたことは、医師事務作業補助者という言葉は普及してきていますが、実態はあまり知られていないと感じました。この知識の乖離が今回のセミナーが成功に終わった一番の要因と考えます。医療機関によって医師事務作業補助者の活動が違い、業務整理も進んでいないのが現状のようでした。しかし一部の医療機関ではすでに上手に活用されており、今後さらなる発展を目指していました。本セミナーの目的は医師事務作業補助者の有効な活用方法を見出し、最終的には患者さんに効果が還元できればと考えます。



今回のセミナーで実務管理者の講演の中で「勤務医の負担軽減は方法であって、医師事務作業補助者は患者さんに良質な医療を提供する一翼を担うことで、配置目的は患者さんのためである」という言葉がありました。医師事務作業補助者の仕事の手伝いさせていただいて数年になりますが、まさに医師事務作業補助者の本質はそこにあると思いました。実は私も非常に勉強になりました。



北海道のみならず、全国の他の地域でも同様の状況にあると推察します。やはり、質の高い医師事務作業補助者を排出し、患者様のために継続的活動を行う必要があると思います。今回のセミナーを契機に北海道の医療機関の法人会員が著増しました。NPO 法人の維持のためにもこのような活動は重要と考えます。全国の医師事務の皆様ぜひ行動を起こしてください。必要があれば

あれば本部共々北海道は皆様の活動を支援いたします。何かあれば事務局までご連絡を。

最後に今回セミナー開催にあたりご尽力をいただいた世話人にお方々に感謝いたします。特にお忙しい中会場を提供いただき、座長をお引き受けいただきました佐藤勝彦先生、また種々の業務を引き受けていただいた事務局に対して感謝はつきません。



皆さん成功しました。ありがとうございました。

NPO 法人 日本医師事務作業補助研究会 北海道支部

代表世話人 高橋 明

(札幌白石記念病院 副院長)

